

第1部 研究の概要

生徒・教職員が共に学びを実感できる学校を目指して

1 はじめに

本校は、県内で3校目、福井市内では2校目となる「教科センター方式」の学校として移転開校し、9年目になります。校舎は「風のひろば」を中心としたワンフロアの「全校一体」型の造りとなっており、「異学年交流から生まれる学び」が積極的に展開されることが重視されています。そのような安居中学校の資源を生かして教育活動のあり方を追究し、最大限に教育効果を高めていくことが私たちに課せられた責務であると認識しています。特に小規模校という本校の特性や、生徒の実態・地域性などをふまえながら、育てたい力や目指す生徒像、目指す学校像を明確にし、どのように具現化していけばよいかということについて研究を進めていくことが最も必要なことであると考えています。

この9年間で、生徒数が減少し、開校当時の教職員はいなくなり、様々な課題も出てきているのが現状です。そのような中で起こったコロナウィルス感染拡大防止のための臨時休業。それは学校現場に大きな混乱をもたらし、私たち教職員も教育の在り方そのものを再検討せざるをえなくなりました。本校では3月以降、家庭訪問を中心として課題配布をし、生徒の状態を確認してきましたが、非常事態宣言が出された後は、それすらもままならなくなりました。そのような中でも、教職員が知恵を出し合い、教科はもちろん、健康増進に関する内容の授業配信を行い、また登校日においては各教科、養護教諭による面談を実施するなど少しでも生徒にとって不安感を軽減できるような取り組みを行ってきました。

今年度は、コロナウィルスによる多くの制約で、様々なマイナスの側面があったことは否定できません。しかし、コロナ禍を安居中学校にとって1つの転機と捉え、全ての教育活動を見直し、さらによりよい安居中学校に変えていくことができるのではないかと考え、様々な実践を重ねてきました。この1年間の実践を改めて客観的に振り返り、そこから見える課題を来年度への実践へと繋げていくことができればと考えます。

2 今年度の実践

○ 研究主題 「Agencyを育む学び～共に創るプロジェクト学習～」 の設定

本校は、開校以来「社会参画型学力の育成」を学校教育理念とし、教育活動全般を通して「自己を高め、協働しながら主体的に学び、価値あるものを創造していく力」の育成に力を注いできました。その中で生徒・教職員が「生徒が主役」というキーワードを念頭に置き、生徒が中心となって学校を創っていく姿勢を育もうと取り組んできました。

昨年度、この「生徒が主役」というキーワードの意味、主役である生徒が主体的に学ぶために何が必要かを再考しました。福井大学連合教職大学院の先生からも御教示をいただき、その中で「自分で考え、自分から責任を持って行動する資質」が必要であることに気づかされました。そこで、OECDが提唱している「Agency」という言葉を用い、「Agency」を「自

ら考え、主体的に責任をもって行動する資質・能力」と捉え、「Agency を育む学び」という研究主題を設定しました。また生徒が自分たちで考え、責任を持って実行、そして省察を行うプロジェクト学習を、昨年度以上に取り組み、さらにそのプロジェクト学習を生徒・教職員が共に探究していくために、サブタイトルを「共に創るプロジェクト学習」としました。

OECD で提唱している「よりよい未来の創造に向けた変革を起こす力」を身につけるために、見通し（Anticipation）行動（Action）振り返り（Reflection）すなわち「AAR Cycle」を意識することで、個人のみならず、社会全体の「ウェル・ビーイング」を目指していく力を、本校の特徴、資源を生かし、生徒・教職員だけでなく、地域と共に「Agency」を育むことができると考えました。

○ 研究主題にもとづく実践

「Agency を育む学び～共に創るプロジェクト学習～」という研究主題のもと、「生徒 Agency を育む」「教員 Agency を育む」「生徒・教師の協働により Agency を育む」という3つの柱を中心に実践を行いました。それらの実践の詳細については、この研究紀要の第Ⅱ部、第Ⅲ部において記述されています。以下は、本校の実践における3つの柱の主な実践内容です。またそれら実践の中から「教師 Agency を育む」ために実践した研究会の内容をまとめました。なお、この後のページに掲載している「令和2年度安居中学校のすがた」は、11月に実施した本校の公開研究会に向けて作成したものです。12月以降の実践についても加筆しています。

生徒 Agency を育む

- ◎ACS (Ago Community Session)を通して、プロジェクト学習の見通す力・行動する力等をつける。
- ◎学年掲示版に自分の学びを可視化する。
- ◎My Learning で自分の学びを語り、次へのステップを考察する。
- ◎生徒が主体となり、課題解決型の授業を展開する。

教員 Agency を育む

- ◎プロジェクト学習に見通しを持ち、教科・道徳と関連づけたカリキュラムを構築する。
- ◎研究主題を意識して授業実践・参観、生徒の変容から授業研究を行う。
- ◎研究会では「学校とは?」「教師の専門性とは?」などを幅広いテーマでセッションを行う。

生徒・教師の協働により Agency を育む

- ◎生徒が提案する職員会議
- ◎教師も参加する My Learning
- ◎生徒・教師の福井大学ラウンドテーブルへの参加
- ◎生徒の発達に合わせた各プロジェクト学習への関わり（授業など全ての教育活動での導入・展開・深化の場面）

* 教員 Agency を育むための研究会

1 学期		2 学期	
4 月	第 1 回研究会 (22 日) ・「学校とは?」「教職員とは?」	1 1 月	第 1 0 回研究会 (25 日) ・教員の My Learning ・図書紹介
6 月	第 2 回研究会 (4 日) ・「教卓はどこに置く?」 ・図書紹介		公開研究会 (26 日)
7 月	第 3 回研究会 (19 日) ・「教師の専門性とは?」 ・プロジェクトシートについて ・図書紹介	1 2 月	第 1 1 回研究会 (9 日) ・公開研究会の振り返り ・実践記録を読む ・図書紹介
8 月	第 4 回研究会 (4 日) ・実践記録を読む ・図書紹介		第 1 2 回研究会 (16 日) ・今年度の取組の検証 ・実践記録を読む ・図書紹介
9 月	第 5 回研究会 (24 日) ・「公開研究会」の位置づけ ・9 月までの実践報告 ・図書紹介		「研究紀要」の執筆
1 0 月	第 6 回研究会 (8 日) ・研究主題をどう捉えているか? ・図書紹介	1 月	第 1 3 回研究会 (13 日) ・「指導と評価の一体化」 ・図書紹介
	第 7 回研究会 (14 日) ・「教員の学びとは?」 ・図書紹介	2 月	第 1 4 回研究会 (10 日) ・学校評価を振り返る ・図書紹介
	第 8 回研究会 (28 日) ・「安居中学校研究の概要」につ	3 月	第 1 5 回研究会 (10 日) ・研究紀要を読み合う ・図書紹介
1 1 月	いて ・図書紹介		第 1 6 回研究会 (17 日) ・「指導と評価の一体化」 ・図書紹介
	第 9 回研究会 (18 日) ・教員の My Learning ・図書紹介		「研究紀要」の発行

* 令和2年度 安居中学校のすがた

令和2年度

福井市安居中学校

福井市中学校教育研究協議会研究指定 福井大学教職大学院拠点校

研究主題 「Agency を育む学び」～共に創るプロジェクト学習～

安居中学校の資源

Agency (自ら考え、主体的に責任を持って行動する資質・能力)

◎全校一体型教科センター方式

「学びのひろば」で協働探究、学びの痕跡から学びのスタイルを感得

「風のひろば」で異学年交流 全校集会、全校道徳、合同帰りの会、全校一斉合掌、全校一斉黙想

つながりあって育つ学校 「社会参画型学力」

主役である生徒たちが、協働して、考え、実行して振り返り、
社会参画への意欲を高め、地域社会に貢献する生徒の育成

生徒 Agency を育む

- ◎プロジェクト学習に見通しを持ち、目的を明確化
 - ・ACS(Ago Community Session)での意見交換
- ◎自分の学びの可視化
 - ・学年掲示版を活用し、自分の学びを残す
 - ・My Learningで自分の学びを語り、次へのステップを考察
- ◎生徒が主体で、課題解決型の授業を展開

教員 Agency を育む

- ◎プロジェクト学習に見通しを持ち、教科・道徳と関連づけたカリキュラムの構築
- ◎プロジェクトシート・実践記録の作成
 - ・研究主題を意識した授業実践・参観
 - ・生徒の変容を見取る授業研究
- ◎研究会の実施
 - ・「学校とは?」「教師の専門性とは?」など幅広いテーマでの話し合い
 - ・実践記録を読み合い、授業実践に活用

生徒・教師の協働により共同 Agency を育む

- ◎生徒が提案する職員会議
- ◎教師も参加する My Learning
- ◎生徒・教師の福井大学ラウンドテーブルへの参加
- ◎生徒の発達に合わせた各プロジェクト学習への関わり (全ての教育活動での導入・展開・深化の場面)

地域・保護者 Agency を育む

- ◎学年プロジェクトでの公民館の活用
- ◎My Learning への参加

総合的な学習の時間、特別活動、道徳、教科を関連させ、生徒主体の探究的なプロジェクト学習

☆サマープロジェクト 異学年でのプロジェクトを通して安居中生としての自覚を持たせ、連帯感等を育む

『ホテル観察会』『飛躍の会』『学校祭「∞～一人ひとりがスターになれ!～」』 10月 My Learning

☆オータムプロジェクト 学年でのプロジェクトを通して、地域に生きる貢献しようとする意識を育む

1年: テーマ「プライド」 『安居をもっと知り隊』(文化・自然など) 11月(公開研究会)
2年: テーマ「REBUILD&PEARL」 『安居をもっと知り隊』(地域に関する制作) My Learning
3年: テーマ「実践力・やり切る力」 『Bridge～おかえりなさい安居プロジェクト～』

☆ウインタープロジェクト プロジェクトにおける学びを感じ、次年度へつなげようとする姿勢を育む

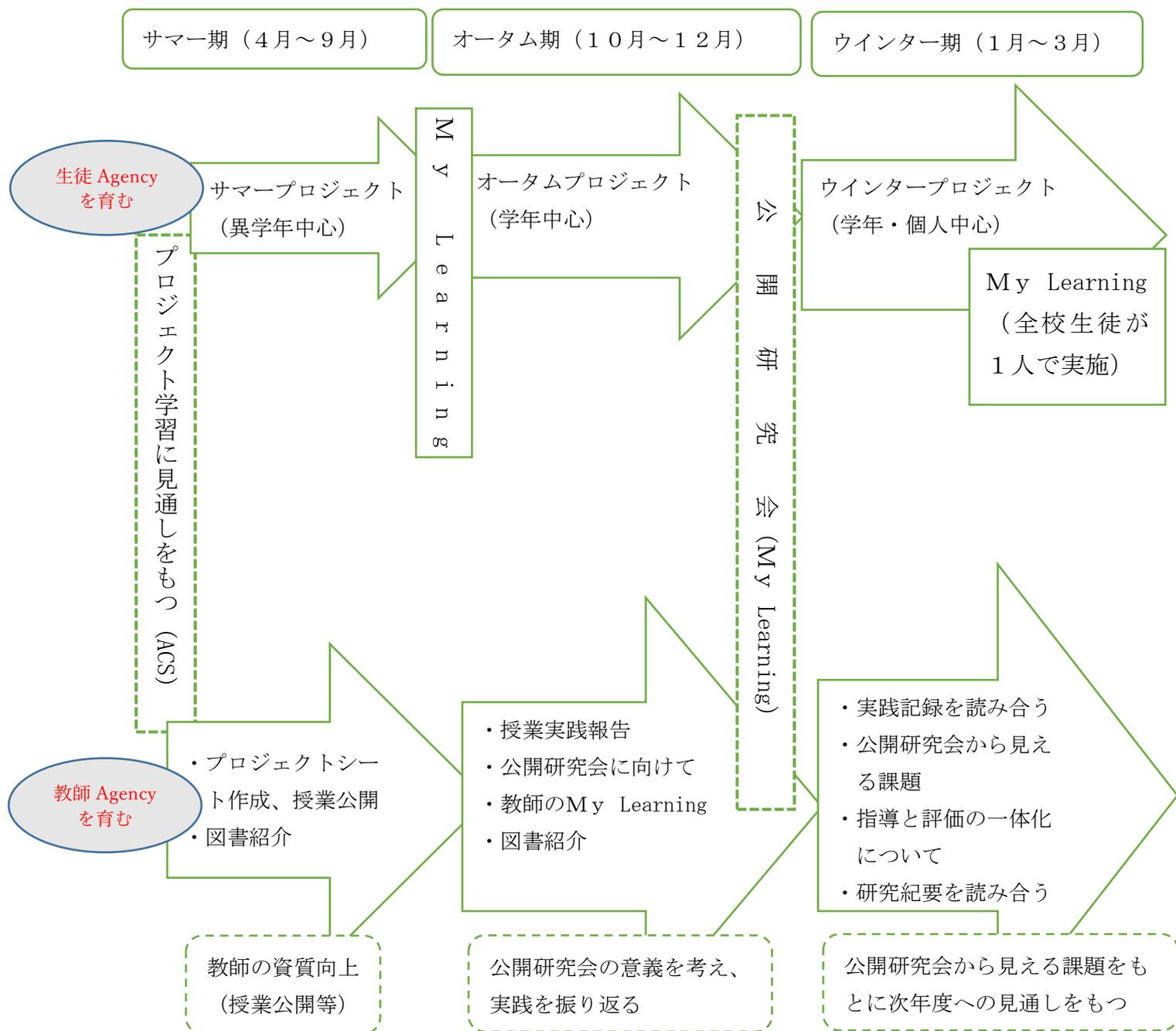
1年: テーマ「プライド」 『小6インターンシップ』『高校調べ』 2月 My Learning
2年: テーマ「REBUILD&PEARL」 『Project「シン」STEP UP』『流星の集い』
3年: テーマ「実践力・やり切る力」 『3年間のタイムカプセル』作成

3 ふりかえり

前ページに掲載した「教師 Agency を育む研究会」「安居中学校のすがた」より、生徒と教師が共に歩む1年間の流れをつくることのできたのではないかと考えます。

そこで今年度の実践をふまえて、生徒、教師 Agency を育む1年間を3つのシーズンに分け、下記のように表しました。なお、実践の内容については、前ページに表記してある「令和2年度安居中学校のすがた」を参照してください。

*4月～となっていますが、今年度については、コロナウィルスによる臨時休業により学習のスタートが6月からでした。



6月からでしたが、学校全体で見通し（Anticipation）行動（Action）振り返り（Reflection）すなわち「AAR Cycle」を意識して、各教科の授業、各学年のプロジェクト学習を行ってきました。そして安居中学校での学びを生徒と教師が、学校全体でMy Learningという形で学びを感じる実践できたと考えます。このMy Learningは、昨年度の当初は、「思い出語ろう会」という名称で実施されていました。名称の通り、生徒がいろいろな活動を通しての思い出を語る活動でした。それを学校での学びを語る場として「My Learning」に名称を変えての活動になりました。11月の公開研究会では、全校生徒が1人～3人でしたが、公開研究会後の研究会で、「My Learningの語り手・聞き手の質の向上」という意見いただき、2月は1人で行うことになりました。このようにMy Learningの内容がレベルアップし、それにかかわる教師の力量も伸ばすことができたのではないかと考えます。語り手の質の向上については、「見通しを持って計画を立てる」「振り返り」の活動をより深くなるよう教師が生徒に関わる必要があると考えます。聞き手の向上については、日々の授業におけるグループ学習などを通して伸ばしていくことができると考えます。だから授業を構築していく教師の資質向上が、生徒の資質向上にもつながることを再認識する必要があります。

公開研究会に実施した「全校生徒と教師によるMy Learning」は、本校が他校に誇ることのできる活動の一つであると言えます。これはこの安居中学校が「小規模である」という学校の資源と、生徒・教師が日々自分の学びを意識した授業実践などを行っていることが合わさっているから実践できる活動であると捉えています。

My Learningのような安居中学校としての資源を生かした実践が、まだ他にもできるのではないかと考えています。生徒と教師が共に「安居中学校の資源とは？」ということのを再考し、安居中学校の可能性を広げていく必要もあると考えます。

昨年度は、安居中学校を改めて見直し考え、手探りの中で「とりあえずやってみよう」という1年であったと捉えています。今年度も、手探りの中であり、さらにコロナ禍ではありましたがそれぞれの学年、学校全体で1年間の見通しを持って計画する、行動、振り返りを行うことができた1年でした。

今一度「この安居中学校を、生徒と教師がどんな学校を共に創っていくか」を考えて来年度の安居中学校づくりを実践していくことができればと考えます。

文責 伊部雅之

出典 「The OECD Learning Compass 2030」

「OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来」2020年 ミネルヴァ書房